



# FUKUSHIMA 市民インタビュー

このコーナーでは、福島市のさまざまな分野で活躍する人や団体を紹介します。今回は、10月21日(日)に再オープンする福島市体育館・武道場内の弓道場の施設整備にご尽力いただいた福島市弓道連盟会長の高久英昭さんにインタビューしました。



福島市弓道連盟  
会長 高久 英昭さん

**🏹 弓道を始めたきっかけは？**

高校教師だった私は、高校から始めた柔道を続け、赴任先でも柔道部の指導をしていました。しかし、私が50歳のとき、福島女子高校(現・橋高校)に赴任し、校長先生から「弓道を教えてもらえないか」と弓道部の顧問を任せられたのがきっかけです。当時、福島女子高校は県内でも強豪校で、顧問の私も弓道を早く覚えるために、日々生徒たちに習いながら過ごしていましたね。

**🏹 活動内容は？**

市弓道連盟は、会員80人ほどの組織で、高校生や一般の方が参加する弓道の大会の運営・審判などを行っています。また、毎週火・金曜日には、森合運動公園内の弓道場で一般向けの弓道教室を開

いています。

私自身は、定年退職後も、引き続き福島女子高校・福島高校・福島北高校などでコーチとして、弓道部の指導を続けていました。現在は、橋高校の外部コーチとして、毎週土曜日に、部活も学業も両立してほしいという思いで生徒たちを指導しています。また射手としても、大会に参加したり、市弓道連盟の会長として、大会を無事に終えるようにという祈りの射「矢渡し」を射ることもあります。

**🏹 弓道の魅力は？**

28メートル先の的に、心を空にして向かう境地に醍醐味を感じられることです。弓道は、自分のその時の精神状態がそのまま表れます。また、弓を射るまでの所作が整わないと、的中率にも影響が出ます。弓を射た的の先に今の自分の姿が見えると思います。そしてその素晴らしさを仲間たちに伝えていくことが私の役目だと思っています。

**🏹 新しい弓道場に寄せられる期待は？**

設計の段階から関わらせていただき、連盟としてこういう弓道場にした



【写真】左上：矢渡しを披露する高久さん  
右下：高校生を指導する高久さん

いと、平面図を描いて提示したり、意見を述べてきました。新しい弓道場は県内でも数少ない屋内弓道場で、天候に左右されずに集中できる最高の弓道場だと私は思っています。11月3日(祝)に道場開きと祝射会を開催する予定です。新しい弓道場は、私たち市民だけでなく、他県からも利用したいとの声をいただいていますので、本当にオープンが待ち遠しいです。

**🏹 これからの活動は？**

高校生との稽古のたびに、エネルギーをもらいながら、84歳の今日を過ごしています。できればあと数年長生きし、弓と関わりたいと思います。そのために健康に留意したいですね。



## We Love♥ふくしま!

### 第9回『ハザードマップ』

皆さんは、自宅や職場が「浸水想定区域」にあるか否かご存知ですか？

「浸水想定区域」とは、降雨により河川が氾濫した場合に浸水が想定される区域をいいます。阿武隈川、荒川、松川では、国、県により浸水想定区域の見直しが行われ、想定し得る最大規模の雨量を千年に一度の確率として、2日間で323mmと想定し、その区域と水深が公表されました。

今年も、大阪北部地震、西日本豪雨、台風21号、北海道胆振東部地震と災害が相次いでいます。被災された皆さまには心よりお見舞いを申し上げますと共に、被災地の1日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。改めて防災対策の大切さを認識させられます。注目すべきは、西日本豪雨で被害が大きかった倉敷市真備町で、浸水した区域が浸水想定区域とほぼ一致していたということです。事前に予測したハザードマップが、全戸配布されていたにもかかわらず、住民にしっかりと認識されていなかった。避難行動に結びつかなかった。また、亡くなった方の多くは自宅の1階で亡くなっており、

堤防決壊が夜の午前0時近くであったために、寝ていて逃げる間もなかったことが推察されます。

福島市では、台風13号の接近に伴い8月9日午後6時15分、市内全域に避難準備・高齢者等避難開始情報を発令しました。夜半に風雨が強くなり避難勧告等を発令する事態を予測し、高齢者などには、寝付く前に安全に避難していただくという判断からの発令でした。

以前よりは自主的に避難された方が増えましたが、風雨がさほど強まらなかったこともあり、38人でした。市民への情報伝達方法を工夫したり、避難への意識を高めて、早めに避難していただけるようにすることが今後の大きな課題です。

市では、今年度中に防災タウンページ(福島市版)を活用して、改定した洪水ハザードマップを全戸配布し、浸水想定区域や土砂災害警戒区域を対象とした避難関連情報を発信していく予定です。

その際には、浸水想定区域って何?とならないよう、区域や避難所などを必ず確認しておきましょう。

ハザードマップは、市役所河川課窓口や支所、市のホームページでも確認できます。

福島市長 木幡 浩

